

ところで仏教ってなに？

虎頭 祐正

はじめに

過分なご紹介を頂きました。洛南高等学校の虎頭と申します。大学でなさいます公開講座に、時々聴講に寄せて頂いておりますうちに、いっぺん話をするようにというご依頼を受けまして、大変、ありがたく名譽に感じております。と申しますのは、数ある京都の大学の中でですね、私の勤めております高等学校も含めまして、良い名前を付けている学校は少ないですね。その中で、例えば私どもが「良い名前だな」と思うのは「同志社」。志を同じくする者が集まって、大切な四年間ないしは六年間を

送ろうという目的意識が非常にはつきりした名前です。

女子ではやっぱり「光華」という名前は素晴らしい。お手持ちの当学園編の聖典の初めの方に「光華」という言葉が出ておまして、この仏教において光とは、「人知を超えた永遠の理法としての究極の智慧を意味する。その光を受けてはじめて、混濁の世にある我々が『華』としての自己の清浄性に目覚めることができるのである」というように、「光華」という名前を実に美しい文章で述べておられます。皆さんは光を受けて輝く女性であるということを担当に誇りに思っておられることと思います。

翻って、私どもの学校は、京都の南にあるから洛南高等学校という、まるで京都にあるから京都大学、東にあるから洛東高校というのと並んで、京都の南にある高校という仮の名前を名乗っております。例えば「本願寺」というのはすごい名前なんですけれども、私どもの付属しております弘法大師の学校が、当時、東の方にあるから東寺、ということとは西の方にあった西寺というのと対をなしているわけです。それと同時にまたもう一つの名前が、左京の方にあるというので左寺。今は京都駅から京都を判断するという癖がついておりますので、左ということがよくわからないと思うんで

ところで仏教ってなに？

すけれども、御所から南を向いた時に、ここは右京。それから東寺のあります方は左京。けれども本当の名前は、「金光明四天王教王護国寺秘密伝法院」あるいは「弥勒八幡山総持普賢院」。これ、クイズに出したら誰も答えられないと思うんですね。「京都に平安京の時以来あるお寺は何か？」と。答えは「東寺」でそれでほとんど正解。でもそれは仮の名前であって本当の名前は「金光明四天王教王護国寺秘密伝法院」と言うんだという答えをできる人はほとんどないだろうと思うんですね。それでちなみに、奈良に東大寺というお寺と、東大寺学園という中学、高校があるわけですけれども、東大寺の本当の名前というのは、「金光明四天王護国寺」ですね。「教王」というのだけがないんですよ。

それで、この名前をつくづく考える時に、私どもにとって一番大きな課題というのは、この国の平和を一体何によって守るか。こういう立派な建物の中で静かに聞法できるといえるのは、ある意味で世界で最高の幸せだと思えますけれども、この幸せがいつまで続くか。すでに、核兵器を保有している或いはこれから保有しようとしている国に囲まれ、いつどんなことがあって、この国があつという間に消えてしまうかも

わからないという危険性の中で、今度選挙があるわけですから、やっぱり日本も核武装をしないと守れないというのが、世間の常識として、否むことのできない現実を反映しているわけであります。その中で、本当に武力で国が守れるかどうかということは、皆さん、緊急に、忘れることのできない問題として、それぞれの頭の中にお持ちだと思っ込んでですね。

その時に、「教王護国」つまり、教王というのはダンマによって平和が保たれる。ご承知のように、アシヨーカ王がインドを統一するにあたって実にたくさん犠牲者を出しました。犠牲者を出す命令した者のほとんどは犠牲者が出たことを直接には知らないんですね。ところが、このアシヨーカ王は死屍累々とした悲惨な状況から、絶対にこれからは武力でもって国を統一したり、守るということをやってはいけないということをお考えになって、それで、自分たちはこれからダンマによって、国の平和と各国との外交関係を確立したいという願いを持たれたということは、すでにいろんな機会でお聞きになっていらっしゃると思います。それを受けて、聖徳太子が、日本で初めて仏教で国というものを経営していくということを実験なさった。その記録が

ところで仏教ってなに？

皆さんお持ちのこの聖典の中にも出ているわけです。ともかく、武の王ではなしに、教への王というものによって、或いは教えを王として国を守りきっていくということ、が本当にできたならば、私どもの国というのは大きな貢献を人類史に果たしたことになるわけですが、いかんせん、武力に依らずして国の独立と各国との共存というものを確立する方法は、未だに秘密であると。例えば、国際連合の議場でですね、真理によって、いかに言葉というものを駆使しながら、お互いに尊重しあって生きていくかということは秘密です。例えばこの学園が仰いでおられる、正面の「南無阿弥陀仏」という言葉です。多くの場合、本尊というのはみな仏像です。仏像はそれ自体として非常に文化財としての意味も持ち、また、それ自体の尊厳性も持つのでありますけれども、本願寺の宗旨におきましては、木像や絵像でない、名前ですね。「南無阿弥陀仏」という名前が本尊である。つまり、文字となった仏ですね。それがこの本尊だと。同時に言葉というのは「声」を持ちますから、声と文字となった仏、というものを本尊に仰いでいる。言うならば、いかなる偶像性も持たない、最も新しい意味での宗教だと。私はかねがね、仏教というのは、聞けば聞くほど新しい、聞けば聞く

ほど新鮮な気持ちを与えてくれて、クールで、元氣が出て楽しい、これからの宗教だ
 ということを確信を持つて言えると思うんですね。今日の状況を見ましても、教王護
 国というのは、まだ秘密の扉の中にあつて、それを広くお互いに語り合い、了解して
 いくというふうにはなっていない。その秘密を見つけてそれを伝える寺でありたいと
 いうふうな名称が「教王護国寺」という略称。それからもう一つの名前が「弥勒八幡
 山」。弥勒菩薩という方がどういう方であるかということとは仏像としてはご存じです
 けれども、大体、どういう射程距離を持つて考えられた方であるかと言いますと、五
 十六億七千万年。物理学者の計算によりますと、大体、その頃、宇宙というか、銀河
 というか、太陽系というか、母なる地球というか、私どもが関わりを持つ限りの宇宙
 というものが滅びるのが、大体、五十六億七千万年後だということを物理学者が計算さ
 れまして、そのような時に備えておられるのが弥勒菩薩。対して、八幡さんというの
 は皆さんお馴染みの、武の神様であると同時に、農耕の神様なんです。鉄というの
 は、刀、あるいは鉄砲を作つていくと同時に、我々の生存の基本である食糧を生産す
 る道具にもなるわけです。その弥勒菩薩と八幡さんとを共に大切な考え方の基本とし

ところで仏教ってなに？

て抱えていって、「普賢」というのは実践を現しますから、それを実践をしていく寺。まとめて「八幡山教王護国寺」というのが一応の名乗りになっております。だから洛南高等学校というのは、本来ならば、先程ご紹介頂きましたように、種智院高校とも名乗るべきものですが、種智院というだけでは少し説明が不十分で、「綜藝種智」、総合かつ根本というものを網羅する大学を日本で最初に作られたのが弘法大師だというふうに伝えられていることからするならば、綜藝種智高校、あるいは綜智高校とでも名乗るべきであるというふうに思います。

仏 教

さて、名前の紹介をするのはこれくらいにしまして、今日出しておきました題は「ところで、仏教って何？」という、ある意味で題らしくないテーマを出させて頂いております。と言いますのは、私が四十五年、五十年近く、一つの学校に関わっているわけですけれども、私が今でもお預かりしています高校一年生、十五才、生まれて

初めて宗教とか仏教ということを知り、人々を対象に一年間、宗教（仏教）を共に学んでいく仕事をずっと続けております。つまり、初めての仏教、初めての宗教。宗教にどういうイメージを持たれるかというところ、おそらくは、皆さんはそうでもないかと思うんですが、多くの人にとっては、どうも宗教というのは、ある意味では怖いということがあるわけです。けれども、宗教なしにして道徳、あるいは人間性の本当の意味での開発、錬磨ということが可能であるかどうかということを考えていった場合に、やっぱりそこに、仏教というのは仏の教えですから、仏様とはどういうお方であるかということが、そこに最初に出させて頂いている資料の一枚目ですね。「仏とはどういうお方か」。正式には『無量寿経』には如来の十号という十の呼び名があるわけです。十も呼び名があるということは名前が決まらないということだと思えます。その中で私どもにわかるのは、まず「如来」という言葉ですね。この如来という言葉は実に正確な表現でありまして、命はどこから来たかということを考えていく場合に、どこから来たというのはわからないですね。それで仏伝では、ゴータマ・シツダールタは、元、兜率天におられた。天から降りてこられたんだという、まるで宇宙

ところで仏教ってなに？

人がどこかの惑星から飛来したような表現で書かれているわけです。命はどこから来たかという場合に、「どこから来たかはわからないなあ。ともかくどこから来たんだ」ということで、「如」ですね。命の元とでも言うべきものから来たんだと、そういう意味ですから、大体了解できる。その次に「世尊」、世に尊ばれる方。いかなる人にもある、本当の尊さを仰がずにはおられない方であると。その次が「世間解」。世間のことをよくわかっていると、世の中のことをあまり知らない未熟な人間じゃないに、酸いも甘いも苦勞人として裏の裏まで知っておられる方という意味です。その次が「明」と「行」ですね。明というのは智慧です。行は実践です。智慧と実践。つまり理論と実践というものが共に備わるといふことは非常に困難だと。それで明と行を共に完成しているという名乗りです。非常に大事な名乗りになるわけです。高校生に一番わかりますのは「勝利者」世に勝った人。それから「覚者」目覚めた人。「真人」本当の人間というのは高校生にすんなりと入るわけですけども、わからないのが「調御丈夫」という言葉です。經典にそのまま出ておりますので、ご説明をお聞きになったかもしれませんが、原語を調べて行きますとチャリオットですね、二

輪馬車。二輪馬車というのはなかなかすごいスピード：映画（「ベン・ハー」）をご覧になりましたか？ 二輪馬車で競争して、そして勝者を讃えるということが古い時代によく行われていたわけですけども、チャリオット、今で言う七五〇cc。これに乗るこなす。私はこう見えましても七五〇ccの免許状を持っていると言いましたら、生徒が「ええ〜」と言って冷やかすんですよ。そういう爆発的なエネルギーを持っていると言われるものが煩惱と言われるものですから、パッションですね。そういうパッションを乗りこなすことができた者を「仏」というんだと。そういうふうに言いますと、非常にわかりやすい表現だということがわかるわけです。

仏教を伝える

なんせ初めての仏教、宗教を高校一年生に聞いて頂くわけですから、初めに厳しく、そう面白い話をするわけではありませんので、初めにお約束をします。せっかくお越しになって、睡魔に負けておられる方もおられますけれども、これは高校生の

ところで仏教ってなに？

場合は特にそうですね。この睡眠に勝つ方法ですね。眠気というのは一つの「魔」ですから、魔と戦わなければ、悟りの岸に行くことはできないというんで、私が授業の初めに必ず約束しますことは、話は目で聞いて下さいというのが一つ。その次に、話は一人で聞いて下さい。ここには何人おられるかわかりませんが、何人かのうちの一人だけだったら油断して眠ったりするでしょう。私一人に話して下さいと思っ
て聞いて下さい。それからもう一つは腰骨を立てて下さい。姿勢を正せとか、背筋を伸ばせということとはよくお聞きになると思いますけれども、腰骨を立てるということはあんまりお聞きになつたことがないと思うんですね。一回実験してみてください。お見受けしますと、まだ一回生の方もおられたりするわけですけども、四年間、九〇分なりの長い授業を聞いて、それを完全に自分のものにするにはどうしたらいいか。話を聞く態度ですね。これを今日身につけて覚えておいて頂いたら、学生生活の貴重な宝となると思いますね。繰り返しますと、話は目で聞く。普通は耳で聞くというんですけれども、耳で聞いたら目は閉じてもいいということになりますと、やっぱりこれだけエアコンが効いておりますので、当然眠気に誘われますから、目を開けて

聞く。例えば、『大無量寿経』で非常に大事なことと言ったら、第十八番目の誓いですね。「私がもしも仏になったとして、十方の衆生が、至心に信樂して、わが国に生まれたいと欲って十声の念仏を唱えて、往生できなかったならば私は仏にならない」と、その時十方衆生ということを呼びかけてあります。皆さん、この中で一人の例外もなく十方衆生でありますけれども、その受け取り方は私一人に、つまり「弥陀仏」には「私」を救うという働きがあるんだというのが經典の読み方だと教わっているわけです。

初めて仏教なり宗教なりに触れて頂くわけですから、大事なことは、例えば今日の話しでもですね、皆さんがもしも眠いならば、私と皆さんとの間に距離があるわけです。それで私は自分の感覚がちょうど十五才の所まで自分を降ろしていかないといけないわけです。自分がまだ十五才の感覚を保持しているかどうかということを時々調べます。あるクラスで、新入生にアンケートを採られまして、好きなアーティスト。私はガツカリしましたですね。好きなアーティストをいろいろ挙げているんですよ。「コブクロ」というのは何人も書いてましたね。「ミスターチルドレン」「レッドバル

ところで仏教ってなに？

ーン” “ポルノグラフィティ” 初め僕はポルノグラフなんていうタレントがいるのか
と思つたら、”ポルノグラフィティ”。ところが私これ一人も知らないんですよ。相当
距離ができておりますね。それからお気に入りの番組です。中に「うちにはテレビが
ありません」あるいは「テレビは見ません」というのも何人かおられたんですけど
も、割合複数出てきたのが”はねトビ（はねるのトビら）” 何のこつちや全然わか
らん。”リンカーン” “ガキの使い” これはどうもお気に入り番組の目立ったところでし
た。私はこの中の一つもわからない。

それから、自分が常日頃の座右の銘と言いますか、大事にしている言葉。驚きまし
たのは「時は金なり」というのが複数名ありました。「JUST DO IT」とか「明鏡止
水」とか「Every Wall is Door」。何のことですか？ あるいは「継続は力なり」。そ
のような言葉が挙げてあって、皆さん「継続は力なり」というのはしょっちゅうお聞
きになると思うんですね。けれども、正確な元になる言葉ですね、というのは私ども
の学校は三十年連続、あるいは四十年連続、京都府の代表を務めているクラブがいく
つかあるわけですけども、定年を迎えました教頭先生がね、何十年も連続で府代表

になるということは容易ならんことである。継続は力だということを改めて思われ
 て、その語源を調べるように宗教科の方へ依頼がありました。驚きましたね。その言
 葉は、浄土真宗の教育者が、ある学校の創立者に捧げられたお言葉なんです。前文
 がありまして、「念願は人格を決定す 継続は力なり」というのが、いつのまにか
 「念願は人格を決定す」というのが消えちゃって、「継続は力なり」だけが独り歩きし
 て流布しているわけです。それで今年入りました新入生も、「継続は力なり」という
 のを書いておりました。それから、先程の尊敬する人物ですね、担任の先生を挙げた
 り、あるいはご両親を挙げたり、中には塾の先生を挙げたりしている中で、キリスト
 というのがありましたね。そして自分の好きな言葉「アーメン」。もう残念ながら
 「南無阿弥陀仏」と「南無大師遍照金剛」というのはありませんでした。「南無阿弥陀
 仏」はこちらの方ですけども、弘法大師の法名とか名乗りは「遍照金剛」と言
 うんです。ご承知と思いますが、大日如来。これもね、笑えてくるんですけども、
 この間久しぶりに私のパートナーと一緒に映画を観に行きまして、「東京タワー」で
 すね。どうしても観たいというんで付き添って行きました。連れて行ってもらったと

ところで仏教ってなに？

どうか。そうしたらその予告編の中に、「大日本人」というタイトルが生まれてね。何のことかと思ひまして、その時、勘違いというのはすごいものですね。「大日・本人」というのが頭に入っちゃったんですね。考えてみたら「大日」というのは「遍照」普く照らす。それから「本人」は先程言いました、宗教を聞く一つの大事な視点というの、自分に深く関わらせて聞いていくというわけですけれども、本人ですね。つまり信心です。信心については本来に皆さんは、いろんな機会にお聞きになると思いますけれども、あの言葉をよくよく眺めてみました時に、信心というのは「人の言葉となった如来の心」という意味だというふうに了解することができます。そうすると、大日というのは普く照らすという仏の働きであると同時に、如来の心が私どものココロ変わる心に成就した場合には金剛心となって成就する。そうすると、ここにやっぱり行と信というのが一体になっているのが、大日如来というか仏というもののあり方だと思ふんです。弘法大師は大日の意味である遍照金剛を自分の名乗りにしているわけです。これは皆さんが「南無阿弥陀仏」を自分の名乗りにする、あるいは釈という姓を自分の姓にしていらっしやる方もあることと通じると思ふんですね。

それで、自分が十五才の子どもさん、少年というか若者というかそういう人たちの所まで降りられるかなという実験をします時に、そういう生徒が観ている番組とか尊敬する人物とかということもあるけれども、私どもが考えていきます場合に、拠り所にするものは一体何かと言えばやっぱり聖典ですね。聖典は大体赤い表紙になっております。その赤表紙と新聞記事ですね。新聞記事が相照らして生きた仏教というものを成り立たせていくんだということを教えられておりまして、それから極力教材には新聞記事というものを取り上げさせて頂くようにしております。つい何日か前の京都新聞ですね。タイトルが『文明崩壊瀬戸際に』となっていました、アメリカの環境活動家が講演をした。私どもの卒業生が世話役をやっております、それで高校の方へも案内を頂いたんですけれども、私は用事があつて行くことができませんでしたけれども、その報道記事が京都新聞に出ておりまして、持続可能な新たな道への行動を、レスター・ブラウンという人が訴えているという記事が出ていて、場所は京都大学の時計台の記念館ですね。そこに二十世紀の延長のプランAではもう間に合わないということで、プランBというものを提唱しておられて、そこではエコエコノミーというこ

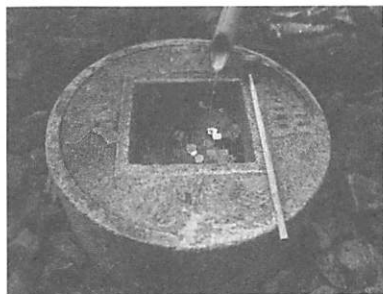
ところで仏教ってなに？

とが非常に大事なテーマになっておりまして、そこでは使い捨てでない経済や、国際的な財政支援、自然エネルギーへの転換というものを提案しているんだということを述べておられます。その時思いますが、例えば、私は今、毎日学校へ出ませんで、一日行つては一日休むという、一日行つて帰ってくるだけでくたびれちゃつて、翌日静かに過ごさなきゃならないこと、お昼の番組を観ることがあるんですね。そうしますと、驚きましたね。皆さんご存じですか。ルー大柴つてご存じですか。おそらくご存じだと思ふんですけれども、ルー大柴つて何をやってるかと思つたら「MOTTA INAI運動」ですね。高校生に聞きましたら、ほとんどの生徒がルー大柴つていう名前を出しただけで笑うんですよ。知ってるんですよ。僕は偶然番組で知つた。その彼が「MOTTA INAI運動」をやつてる。ところが「MOTTA INAI運動」はノーベル平和賞を受けた方が世界的に拡大していつておられるんですけれども、残念ながら象徴的なシンボルマークがないんですね。で、これは皆さん京都におられたら必ず知つておられるのが、竜安寺のマークですね。これは私、ここへお邪魔する時に「眞實心」という、講演を集めた小冊子を頂いて眺めておりました

ら、その中に、姫路工業大学の先生が丁寧なお話をしていらつしやいましてね。その中にマークを一つ紹介してあります。ほとんどの方はご存じだと思いますが、もしもご存じなかったら、京都の学校へ学ばれるお土産として、このマークを覚えて頂く。私はこれをエコマークと呼んでおります。毎日新聞が「MOTTA IN AI 運動」をしきりに展開しておりますので、私は毎日新聞に手紙を出しましてね、「MOTTA IN AI」というローマ字だけでは不充分であると。シンボルマークとして是非これを採用して頂きたいと提案したんだけど、返事は来ましたけれども、「面白いですね」というだけでいっこうに取り上げる気配がなくて、これは一人一人に訴えて何とかやっていくしかないというふうに思いますけれども。これ、読めますね。あきませんか。寝てる人に当てたいけど余所の学校だからちよつとできんなあ……。あ、あなたわかりますね？

これが世界に広まらないということは本当に残念だと思っうんですね。皆さん是非ね、竜安寺にお参りになって、石庭を見学なさる折りが必ずあると思っうんです。またそういうところへ連れて行ってってくれる彼氏を選んで下さいね。これを知ってますとや

ところで仏教ってなに？



つぱり人格に厚みが出るなあ。それで「吾、唯、足るを知る」と言うんです。「足を知る」つまり、欲望が自分なのじゃなしに、欲望に自分がブレーキをかけることができる。つまり、今私どもがやっている生活というのは、このままこれが継続されていったならば、地球はもたないということは薄々予感しておられましょ？そこへね、インドだとか中国だとかがどんどん近代化して自動車を使い、化石燃料を使っていくということになったら、とてもじゃないが地球はもたない。「そんなら、あんたたちは遠慮しなさい。私たちどもは使います」というわけにはいかんでしょ。せめてここにいる人だけでも「足るを知る」と。これ以上必要ではないという、そういう文化を形成していくということが、極めて現代的な課題に答える大きな実践と智慧ですね。さっきの明行足ですね。

新聞記事を見えますとね、川柳があるんですよ。私の読んでいます新聞には。そ

れを読んでいましたら劣等感を感じましたね。皆さんこれわかりますか。この間見て、全然わからないでまだ誰にも教えてもらってないのが、「焼酎の箱に二千万越後屋か」。これ何の意味か全然わからない。誰かお分かりになりますか。分かりましたら教えて下さい。「上げるかと見てたら下げたローライズ」何のこと？ これ教えてもらって初めてわかりましたね。こういう表現を使っているかわかりませんが、余所の高校のことだと思って聞いて下さい。女の子のスカートは年々短くなるんですよ。男の子のズボンは年々下がっていくんですね。それでローライズ。教えてもらったけどももう意味を忘れてしまったのは「ラリホーを唱えて欲しい眠れぬ夜」おわかりになりますか？ それから深刻なのがあるんです。「絶滅はまだまだ先とヒトのんき」。それから「エルニーニョおれにも罪があるのかな？」「人は冷え地球はぬくくなるばかり」。随分皮肉な考えさせるのがあってですね。「偏差値が高いが低い倫理観」「制御棒抜けてしまった国日本」「自分など探さなくてもここにいる」「原因がわかり軽減する痛み」「心ない医者言葉でひどくなり」。後ちよつと関連してお話させて頂きたいと思うのは、「一番と二番で分ける生死の差」「ぼっくりと死ねたらいいな今日でな

ところで仏教ってなに？

く「ふと思う後どれくらい俺生きる」。 (以上は、〇七年度 毎日新聞「万柳」より)

川柳というのはさりげなく新聞に出ているんですけれども、ドキッとしますね。そういうことで自分の老化度というか、距離ができたらどんな真理であつても伝わらない。皆さん「understand」という単語はごぞんじですよ。ところがよくよく見たら「under」に「stand」するわけでしょう。そうすると、十五才なら十五才、あるいは皆さん将来どんな職業にお働きになるか、例えば教師におなりになるとするならば、一番どうしようもない子のところまで降りられるかと。地藏菩薩はきつとそういう方だと思います。仏様というのは一番低い所へ降りて下さった方だということが「understand」という意味だと思ふんですね。私はそういう形で新聞というものを通しながら、拠り所にしてある「三帰依」と「聖典」というものを、どう距離なく、現在の自分の心の大切な拠り所として受け取って頂けるかということを、日々自分を励ましてつやあっていつてゐるわけですね。

仏教の考えかた

それです、ね、仏教の考え方というものは、具体的にどういふふうに出てきてくるかを見ていただきたいと思つて、ずいぶんあれこれ資料を用意させて頂いたのですけれども。相田一人という方のご紹介が出ていて、知る人は知る、特に高校生あたり
の担任の先生がよくお使いになるのは、相田みつをとという方のお書きになる、さりげ
ない言葉だけでも実に仏教の智慧というものを、それこそ文字にして多くの人の心に
響かせて下さっているわけですから、それをちよつと見て頂きます。

【自分の番 いのちのバトン】

父と母で二人

父と母の両親で四人

そのまた両親で八人

こうしてかぞえてゆくと

ところで仏教ってなに？

十代前で千二十四人

二十代前では——？

なんと百万人を越すんです

過去無量の

いのちのバトンを受けついで

いまここに

自分の番を生きている

それがあなたのいのちです

それがわたしの

いのちです

みつを

非常に、無量寿如来ということをこういう表現で言ったださるかと、大変ありがたく受け取っていくんですね。皆さんもご本をお読みになって、ごくわずかな人間というものを媒介にして全人類と繋がることのできるというレポートをお読みになったこ

とがあると思うんですね。これは釈尊の言葉として、「三界は我が所有　その中の衆生はみな　我が子なり」というお言葉。そして親鸞聖人が「一切の有情は、みなもつて世々生々の父母兄弟なり」。そこで寝てる人もね、そっぽ向いてる人もね、あるいは熱心に聞いて下さる方も、他人じゃなくて血の繋がったご親戚であるというんですね。今日のご親戚の皆さんの前で、古い親戚を代表して登場させて頂いているわけですね。そういう人間観というものは、仏教の非常に特色とする所だというんですね。それで、だいたい仏様というのはどういう方か、から、いろいろ横へ話がずれて行ってるわけですけども、私どもの学校では、式典ごとに「三帰依」「四弘誓願」というものを必ず称えていくわけです。皆さんもそうなさっていらつしやると思いますがね。皆さんが仮に外国においになった時に、宗教を書く欄があるんですよ。そこに「無宗教」と書く人と人間扱いされないんです。ところが既に話が始まります前に、所長さんの導唱で「三帰依文」を唱えさせて頂きました。「三帰依文」を唱えたらもう仏教徒と名乗っていいんです。それでこれから堂々とブディストと名乗って頂きたいと思うんです。

洛南高等学校校訓に込められた思い

高校生に「自ら仏に帰依し奉る」というのは全然わからないですよ。「自ら法に帰依し奉る」、法律に従うのはあたりまえだよなあ……という程度の認識ですね。ましていわんや、サンガとは何かということとはほとんど、了解を超えております。それです。私どもの学校では、一番大事な「自ら仏に帰依し奉る」というのを、高校生向きにどう翻訳したかと言いますと、「自己を尊重せよ」。皆さんは自分と別に仏様がいらつしやると思っていました。そういう方が多いと思うんですね。そうじゃなしに、真人ですね。本当の自分を仏と呼ぶんだと。これを新しく赴任してこられた校長さんが、玄関でご覧になりました。自分はシヨックを受けたと。まるで胸元に刃を突き付けられたような思いであるということをおもらしになりました。この校訓は誰が作ったんかと、いうことを尋ねておいでになりました。それくらい見る人によっては、非常に刺激的な翻訳ですね。「自己を尊重せよ」。問題は、「自己とは何か」「自分とは何か」

ところで仏教ってなに？

を考えない人はありませんよね。特にこの頃は「自分的には……」という言葉が流行りまして、あるいは「自分流」という言葉が非常に一頃流行ったことがありました。ところが、一方で「自分探し」ということが起こってきましよう？ そうすると、「自分を探している、その自分こそ、問われるべきで、自分という最大の謎に対し、人はそれぞれの道を辿るが、その謎は外にはない、内にある」だいたいこういう文章をお聞きになると、「ははあ、ん、池田晶子さんだなあ」と。この間亡くなられた。という感じになると思うんですね。自分を探している。その自分こそ問われるべきものであって、自分とは何であるかということ、一番最大の謎であり、かつ課題であり、それぞれの道をたどってその謎を内に見つけていかなければならない。それを先んじて明治の時代に近代語としておっしゃったのが清沢（満之）先生。「自己とは何ぞや」。それを受けて「真理を探求せよ」。ただ問題は、そういうふうにいる自分を自己とわからずに、どこかに本当の自分があるに違いないということの根底に、はっきり「自分」と言った場合、それは複合概念だと。一つはエゴですね。もう一つはエゴをレスしたセルフ。セルフについて自己と言い、エゴについて自我と言う。私

ところで仏教ってなに？

どもを縛っているのは、セルフじゃなしにエゴの方ですね。例えば、私の学校では般若心経というのは非常によく使うものですから、その最後に翻訳してはならない言葉が出ております。「羯諦 羯諦 波羅羯諦 波羅僧羯諦 菩提薩婆訶」これ翻訳できない。「仏陀」という言葉も「菩薩」という言葉も翻訳できません。でも強いてその意味を辿っていくならば、「行こう 行こう かの岸へ かの岸に解放がある。本当に自分たちが解放されていく世界へ目指して行こうではないか」という呼びかけなんです。ところがその呼びかけを妨げるものが「我執」ですね。我に対する執着と書くんですけれども。皆さんがいろいろお考えになります時に、「我」というものは本当にあるのかと。我というものが本当にあるんだしたら、探す必要はないわけでしょう。同時にその我がどうも本当の我とは思えないということがある。いろんな煩惱の根源は、我というものがあるのは誰も疑わないですけれども、私どもが考えているような我はあるかと言った場合に、釈尊の教えは「我々が考えているような我はない」。それなら我はないかと言ったらそうじゃなしに、未だかつて見たことがない本当の我というものがあると。その私は今までの私ではない。生きるに値する私であ

る。それを自己と言うんだと。それが私どもの学校における帰依仏の翻訳です。

十善戒 — 命について

次に、私どもがやってはいけないことを十にまとめてあります。「殺す・盗む・姪する」の三悪業。「嘘をつく・人を傷つける言葉を使う・人の間を裂く言葉を使う・無意味な言葉を発する」という口の四悪道。「貪る・怒る・道理を分かつとしない」という意の三悪道、合計十悪。を戒めて、その逆ですね、不殺生、不偷盗、不邪淫ということをお勧めするのが十善戒だということが出ております。例えば皆さんの聖典の中にも、食前の言葉、食後の言葉というのが紹介してあるんですね。ところが、「み光のもと我今幸いにこの浄き食を受く 頂きます」というんだけど、意味が完全しませんでした。その元の言葉をそこに紹介させて頂いております。「み光のもと我今幸いにこの浄き食を受く」「つつしみて 父母のご恩をおもい 品の多少をえらばじ 頂きます」と。これは初代、洛南高等学校を作った校長（三浦俊良先生）

ところで仏教ってなに？

の翻訳です。「つつしみて」の次は、元は天地になってたんですね。それを「父母」と。父の日、母の日は何の為にあるか？ 父母が今まで自分にして下さったことをどの位思い出せるか試してみして下さい。仏教書を扱っている本屋さんで「父母恩重経」を見て頂くと驚かれることと思います。問題はこの「いただきます」というのは命を頂くわけでしょう。いやしくも不殺生を誓ってある十善戒を人間性の保持とみなしている仏教徒において、殺して生きているという罪ですね。これをどう了解して、命を頂く資格がどこにあるかと言った時に、命を預かって、そして共に、言葉を知っているのは人間だけですから、言葉と声というものを持つことによって仏になっていこうとする可能性を持つ存在と共同して、そして命をまっとうしていこうという意味があるに違いないと思うんです。

不殺生に関連してです。先程、川柳の中にあつたように「一番は無期、二番は死刑」。これ、どうしようもないことが発見されて逃れようがなくなつたんだらうとお感じになると思うんですね。けど、人ひとりの命を片方同じ法律の元に無期とし、片方を死刑にするとはどういうことか。だいたい仏教徒は死刑というのを容認するのか

ということを思います時にですね、資料の3の『ある日 突然』。タイトルが『悲』
になっていきますでしょう。悲しいという字ですね。いかに悪いことをした者であつて
も、それを殺すことによつてしか罪を償わせないという文化に我々はいるわけですけ
れども、そのことは正しいかと。具体的には、私どもの卒業生の一人がオウムに入り
ました。そして文字通り、一番無期、二番死刑という判決を受けて、牢屋の中で、あ
る意味で強いられた「求道の日々」を送らざるを得ない、そういう状況に置かれてい
るということを思う時に、いかにして死刑というものから解放できるか。これ賛否両
論あるんですよ。悪いことをしたら罰せられるのが当然だという常識論ですね。それ
は吟味すべき常識論であつて、本当のところはどうなのかということを考えて頂きたく
い、出世間は世間への挑戦ですから。と同時に私が最初にそれと関わらざるを得なく
なった時の文章をご紹介します。不殺生ということを考えて頂く時に、非常
に大事なヒントになるだろうということをおっしゃってそこに挙げさせて頂きました。

もう一つは、どこかに貼って頂くと思うんですけども、私どもは七月の十五日
に四条烏丸のシルクホールで、相田先生の息子さんの講演会を持ちたいと思つており

ところで仏教ってなに？

ます。私は、例えば、本願寺が今度の御遠忌を迎えるに当たって、大切なスローガンにしているのが、「今、命があなたを」となっていますけれども、私を「生きています」。私を無量寿の命が生きて下さっているんだと。

その命というのが、例えば具体的には小さな命ですね。皆さんこの印刷物の左の方ですが、自殺が年間で三万人ということで大騒ぎになっています。ものすごい深刻な問題であると同時に、その十倍にもなる三十万の生まれざる胎児ですね、それが合法的に殺されているということをお考えになったことがあるかどうか、本当に考えて頂きたい。

例えばね、これはある先生のお話の中から頂いてきたわけですが、これ十二週ですね。これはもうすでに人間でしょう。どう見たって人間ですね。これは十週目の、ネクタイピンの飾りになるような小ささ、これ、子どもの足ですね。そうすると、今、赤ちゃんポストというものが熊本で大変話題になっているわけですから、あれを提唱したのは、私どもの学校の保護者も深く関わって頂いているわけですから、「生命尊重センター」です。妊娠中絶ということが合法的に、且つ、

産婦人科の医者の方の協力を得てですね、年間三十万という数に及んでいるということ
を、無関心でおられる仏教徒はおかしいと私は思います。命にはいろいろあって、一切
衆生という言葉があるように、例えば、犬や猫ですね。私の知り合いが熊本にいまし
て、彼はペットの最期をどのように終わらせるかということにかかわっているわけ
ですね。彼らはペットとは言わないですよ。コンパニオン。同伴者。命を共にし、生
活を共にし、そして命を完成していったらというコンパニオンアニマル。それから障
害を持った命ですね。皆さんが新聞の記事でご覧になったと思うんですけれども、今
年の東京大学の総長の演説はものすごく格調の高いものとして、あちこちに行き渡っ
ていると思うんですが、その総長挨拶に続いてお立ちになったのは、視力を失い、聴
力を失ってしまった、ヘレンケラーと同じような障害を持った方が、いかに絶望と自
殺の誘惑から立ち直って、そしていかに暗闇と沈黙の世界にあっても、挑戦し、命を
全うし、積極的に社会に関わっていくことができるという可能性をご自分の体験から
お話になったのが、総長演説と並んで全国の縁のあるところへ配られてまいりまし
た。私はそれを見ました時に、いかに障害を持った命であっても、もう役に立たない

ところで仏教ってなに？

とか、あるいは死んだ方がマシだということとはとても結びつかないということ。

それと、死者の命ということですね。例えば、親鸞聖人という方は随分前の方であり、既に亡くなっておられる、弘法大師もそうですね、聖徳太子もそうですね。そういう方々のダンマカーヤ（法身）としての御働きによつて、私どもが命の新鮮さというか驚きというか、そういうものを与えられているんだということ。その次に、背く命ですね。例えば第十八番目の願に、「唯除五逆 誹謗正法」という言葉があります。多くの場合にはその唯除というのを、誰か悪いやつは、例えば人を殺したようなやつは、個人名を挙げて恐縮ですけれども、麻原などと言うやつは絶対に死刑にすべきであるというふうに固く信じておっしゃる方がありますが、人（他人）と思つて読んで唯除の文はわからないんで、唯除の文の読み方は、「ただ、私だったら、虎頭祐正を除いて他のすべての者を救う」と。つまり、唯除の次に自分の名前を入れて読む。そうすると、背いた者が本当に救われる道というのは、私どもの頂いている仏教の教えだということを考え合わせてみる時に、死刑の判決を受けて、今、最高裁に提訴している彼をですね、何としてでも、死刑から呼び戻して、生きて罪を償うという

文化に参与してもらわないかんというふうなことを思っております。最期の私どもの命というのは無量寿の命・仏の命だということを付け加えさせて頂いて、これで大体の資料を網羅できたかと思えます。

終わりに

時間が足りませんでしたので、極めて不十分な中途半端なご説明になったことをお詫びして、その場合であつても、資料を眺めて頂きますと、「ああ、こういうことが言いたかったんだな」ということをお感じ頂けるかと思つて、そこにあれこれと載せさせて頂きました。

アツという間に時間が来てしまひまして、非常に名残惜しいんですけれども、貴重なお縁を頂いたことを、本当にありがたくお礼を申し上げたいと思つております。今日はどうも大変ありがとうございました。どうぞ皆さんお元気で。素晴らしい女性になつて下さいませ。女性にしかできない仕事つていうのは随分あつてですね、男には

ところで仏教ってなに？

とてもじゃないが限界があります。キリストが逮捕された時、男の弟子は一人残らず逃げた。恐れおののきつつ見届けたのは女性だそうです。「足うらの土踏む力 女人われこそ観世音ぼさつ」と岡本かの子さんも詠っています。二十一世紀は女性の世紀であるというのは本当だろうと思うんですね。皆さんどうぞ、それこそ誇りをもって一日一日を送って頂けたら大変ありがたいと思います。本当の美しさは内面の美しさからくる。その美しさを培うのが仏教で、どんなにこの世が暗く絶望的に見えようとも、無明長夜の灯がある、という希望の下、どうかこの学園での学びを大切にお過ごし下さいますようお願い申し上げます。今日はどうもありがとうございます。

——二〇〇七年五月二五日——